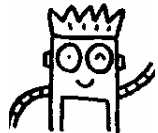


ほうじょうときむね

## 北条時宗は、どんな人だったの



げん 元との戦いを通じて、かまくらばくふ 鎌倉幕府を合議政治からせん 専制政治に変えていった人だよ。

北条時宗は1251年に、第5代執権しっけんの北条時頼ときよりの子として生まれました。6歳さいのときに父時頼が引退して出家したので、後をついで得宗とくそう(北条一門の長)になり、将来は執権になる人として、育てられました。1268年、18歳で第8代執権になりました。

にちれん だんあつ 日蓮を弾圧し、政敵をほろぼした

1271年に元の使節がやってくると、時宗は、防衛力を強めるため、九州に領地をもっている御家人ごけにんを、九州に行かせました。同時に、国内を引きしめるため、浄土宗じょうどしゅう・禅宗ぜんしゅう・律宗りっしゅうや北条氏をはげしく非難ひなんしていた日蓮しけいを、死刑にしようとしたり、佐渡さどに流刑るけいにしたりして、弾圧しました。また、時宗の地位をおびやかしていた、北条一門の名越時章なごえときあきや、異母兄いぼけいの時輔ときすけを殺させました。

## 元との戦いを通じて、合議政治を専制政治に変えていった

ぶんえい えき 文永の役(1274年)の後も、時宗は元に対する強気しせいの姿勢をくずさず、元の使者を殺したり、北九州ほくしゅうに防塁ぼうらい(石を積み重ねた長い要塞ようさい)を築いたり、高麗こうらいに攻めこむ計画をたてたりしました。また、九州・中国地方の守護を、有力な守護と入れ替えましたが、その際、時宗の弟宗政むねまさ・宗頼むねより、妻の父安達泰盛あだちやすもりらを、新守護として西国に進出させたので、時宗の力が強まりました。また、自分の直接けらいの家来の会議である「寄合よりあい」を、政治の中心におきました。このようにして、鎌倉幕府の政治を、有力な御家人の話し合いによる合議政治から、得宗による専制政治に変えていったのです。

こうあん えき 弘安の役(1281年)の勝利によって、幕府の力が大いに強まったのですが、それから3年もたない1284年4月に、時宗は34歳で病死しました。